

目 次

1.	データセットの自動バックアップシステムの変更について .....	1
2.	GKS 85 コマンドプロシジャ・カタログドプロシジャの変更について ...	2
3.	GKS 85 のKST (ストローク) フォント機能の追加について .....	10
4.	A 4 版高速NLP への図形出力について .....	11
5.	k コマンドの公開について (UTS) .....	14
6.	p2c (種々の pascal から c へのトランスレータ) の公開について (UTS) .....	15
7.	遺伝子・蛋白質データベース GENAS 講習会の延期について .....	15
8.	S 講習会の開催について .....	16

1. データセットの自動バックアップシステムの変更について

従来、共用ボリューム上のデータセットは、ADF [1, 2] のバックアップ機能により磁気ディスク装置にバックアップしていましたが、6月11日(月)から、MTL装置 [3] にバックアップするように変更します。これにより、バックアップには、6月9日(土)運用終了後に存在していた共用ボリューム上のデータセット、および、それ以降に作成・更新されたデータセットだけになりますので御了承ください。なお、バックアップデータセットは、データセット消去後14日経過すると自動的に消去されます。

参考文献

1. 計算機マニュアル ADF 運用手引書 V11 用 (79SP-4170-1)
2. 計算機マニュアル ADF 使用手引書 V11 用 (79SP-4160-1)
3. 計算機マニュアル FACOM 6455 解説書 (97HP-7200-1)

(システム運用掛 内線2517)

## 2. GKS 85 コマンドプロシジャ・カタログドプロシジャの変更について

GKS 85 コマンドプロシジャが、テクトロ端末、CLP、および複数のワークステーションの同時動作機能のサポートに伴い、6月11日(月)から変更になります。以下に入力形式を示します。

### GKS 85 コマンドプロシジャ (TSS 処理)

(入力形式)

コマンド名	オペランド
GKS 85	{データセット名 @} [WS ([数値1/数値2:] ワークステーション種別 [, .....])] ] [NLP (O A K S U)] [OPR (OPR機番)] [PRVLIB (私用ライブラリデータセット名)] [ERR (0)] [SIDE (FRONT BOTH)] [BIND (LEFT RIGHT UPPER  LOWER)]

(オペランドの説明)

データセット名|@ : ソースプログラムが入っているデータセット名を指定する。@を指定すると前回のGKS 85コマンドプロシジャで作成したロードモジュールを実行する。

WS ([数値1/数値2:] ワークステーション種別 [, .....]) : 数値1はサブルーチンGOPWKの2番目の引数の値を指定する。数値2は同サブルーチンの3番目の引数の値を指定する。ワークステーション種別には以下のものがある。

- ・富士通カラーディスプレイ
  - F 6 2 4 2 A    F 6 6 5 3 A    F 6 6 5 3 C    F 6 6 5 8 K    F 6 6 8 3 A C
- ・富士通モノクロディスプレイ
  - F 6 6 5 8 A    F 6 6 5 8 B    F 6 6 8 3 A M    F 6 6 8 3 B
- ・TTY端末
  - T 4 0 0 6    T 4 0 1 0    T 4 0 1 2    T 4 0 1 4    T 4 0 1 4 E G M
  - F 9 4 3 2 A
- ・日本語ラインプリンタ
  - N L P
- ・カットシートラインプリンタ
  - C L P A 4 L    . . .    A 4 サイズ    ランドスケープ
  - C L P A 4 P    . . .    A 4 サイズ    ポートレート
  - C L P B 4 L    . . .    B 4 サイズ    ランドスケープ
  - C L P B 4 P    . . .    B 4 サイズ    ポートレート

・オフィスプリンタ

OPRA4L . . . A4サイズ ランドスケープ  
OPRA4P . . . A4サイズ ポートレート  
OPRB4L . . . B4サイズ ランドスケープ  
OPRB4P . . . B4サイズ ポートレート  
OPRB5L . . . B5サイズ ランドスケープ  
OPRB5P . . . B5サイズ ポートレート

・メタファイル (入力)

MI [(データセット名)]

・メタファイル (出力)

MOA4L [(データセット名)] . . . A4サイズ ランドスケープ  
MOA4P [(データセット名)] . . . A4サイズ ポートレート  
MOB4L [(データセット名)] . . . B4サイズ ランドスケープ  
MOB4P [(データセット名)] . . . B4サイズ ポートレート  
MOB5L [(データセット名)] . . . B5サイズ ランドスケープ  
MOB5P [(データセット名)] . . . B5サイズ ポートレート

・セグメント記憶域

WISS

省略すると使用可能なワークステーションの一覧を表示し、入力を促す。

NLP (Q | A | K | S | U)

: ワークステーション種別にNLPを指定した場合の出力クラスを指定する。省略時は O。

OPR (OPR機番) : ワークステーション種別にOPRを指定した場合に出力するOPR機番を指定する。省略するとプロンプトが出力され入力を促す。

PRVLIB (私用ライブラリデータセット名)

: 組み込みたい私用ライブラリのデータセット名を指定する。

ERR (Q) : サブルーチンGOPKSの最初の引数を指定する。省略時は 0。

SIDE (FRONT | BOTH)

: CLP出力時に片面印刷にする (FRONT) か、両面印刷にする (BOTH) かを指定する。省略時は FRONT。

BIND (LEFT | RIGHT | UPPER | LOWER)

: CLP出力時のとじしろを指定する。省略時は LEFT。

(注意)

- ・ WSパラメタは、

CONID = 12

WTYPE = 32

CALL GOPWK (WKID, CONID, WTYPE)

である場合、CONID = 数値 1、WTYPE = 数値 2 であるから、

WS(12/34:ワークステーション種別)

と指定するが、CONID = 1 であつ WTYPE = 1 であれば、

WS(ワークステーション種別)

のように、数値1/数値2: を省略できる。

例えば、CONID = 1234, WTYPE = 5678 であるとする、図形データは GKSC1234 という論理機番から出力(あるいは入力)される。WTYPE は GKS85 が使用するワークステーション型ファイルに記述される数値である。

- ・ 同じワークステーション種別を同時に指定してはならない。
- ・ ERRパラメタは、

CALL GOPKS (12,34)

であれば、

ERR(12)

と指定する。この場合、論理機番 GKSE0012 に GKS85 のエラーメッセージが出力される。

- ・ ワークステーションの同時出力を行なう場合、ソースプログラムが例えば

GOPWK (WKID1, CONID1, WTYPE1)

GOPWK (WKID2, CONID2, WTYPE2)

とすると、

WKID1 = WKID2 であってはならない。

CONID1 = CONID2 であってはならない。

WTYPE1 = WTYPE2 であってはならない。

- ・ WSパラメタに複数のワークステーション種別を指定する場合には、WSパラメタ内を' で囲み、ワークステーション種別ごとにカンマで区切る。
- ・ GKS85 コマンドプロシジャは、作業用データセットとして以下のデータセットを使用する。

オブジェクトモジュール : #GKS#. OBJ

ロードモジュール : #GKS#. LOAD

ワークステーション型ファイル : #GKS#. WTYPE

割当て用データセット : #GKS#. DEV

## 1) 画面出力

プログラムの翻訳から結合編集、実行までを行う。使用するワークステーションは F6683A 型カラー端末とする。このプログラムはサブルーチン GOPWK の 2 番目、3 番目の引数が、共に 1 であるから WS パラメタは以下のように指定することができる。

READY

GKS85 'LIB.SAMPLE.FORT77(GKS85A)' WS(F6683AC)

## 2) NLP への出力

プログラムの翻訳から結合編集、実行までを行う。ソースプログラムで用いているサブルーチン GOPWK の 2 番目の引数が 1、3 番目の引数が 2345 であるから以下のように WS パラメタを指定する。出力クラスは U とする。

READY

GKS85 'LIB.SAMPLE.FORT77(GKS85B)' WS(1/2345:NLP) NLP(U)

3) OPRへの出力

メニューを経由して、2)で作成したロードモジュールを実行し、OPRに出力する。

READY

GKS85 @ ..... WSパラメタを省略するとメニューが現われる。

<<< GKS85 V10L20 START 15:38:40 05/29/90 >>>

=== FOLLOWING DEVICES ARE SUPPORTED NOW. ===

1. FUJITSU COLOR DISPLAY
2. FUJITSU MONOCHROME DISPLAY
3. TTY TERMINAL
4. OFFICE PRINTER
5. LINE PRINTER ( NLP AND CLP )
6. METAFILE
7. WISS
8. < MENU END >

PLEASE ENTER WORKSTATION NO ==> 4 ..... OPRを選択する。この後、OPRシートのメニューが現われる。

--- OFFICE PRINTER ---

1. A4 SIZE LANDSCAPE
2. A4 SIZE PORTRAIT
3. B4 SIZE LANDSCAPE
4. B4 SIZE PORTRAIT
5. B5 SIZE LANDSCAPE
6. B5 SIZE PORTRAIT

PLEASE ENTER CONID/WTYPE:OPR NO --> 1/2345:1

..... サブルーチンGOPWKの、2番目の引数/3番目の引数：ワークステーションの番号（ここでは1、すなわちA4サイズランドスケープを選択している）を入力する。サブルーチンGOPWKの2番目および3番目の引数が共に1ならばワークステーションの番号（ここではOPRシートの番号）のみでよい。この後、最初のメニューに戻る。

=== FOLLOWING DEVICES ARE SUPPORTED NOW. ===

1. FUJITSU COLOR DISPLAY
2. FUJITSU MONOCHROME DISPLAY
3. TTY TERMINAL
4. OFFICE PRINTER
5. LINE PRINTER ( NLP AND CLP )
6. METAFILE
7. WISS
8. < MENU END >

PLEASE ENTER WORKSTATION NO ==> 8 ..... ワークステーションの指定がすべて終了したならば、8を入力する。

PLEASE ENTER OPR UNIT NO ==> XXXX ..... OPR機番を入力する。

4) 複数の図形装置への出力

このプログラムにはサブルーチンGOPWKの2番目, 3番目の引数が共に1のもの, 2のもの, 3のものの3つがある。すなわち, 3種類のワークステーションを使用するため, WSパラメタは以下のように指定する。ここでは, NLP, CLP (A4サイズランドスケープ), OPR (A4サイズランドスケープ) に出力させる。OPRの装置機番はXXXXである。

READY

GKS85 'LIB.SAMPLE.FORT77(GKS85C)' WS('NLP,2/2:CLPA4L,3/3:OPRA4L') OPR(XXXX)

5) メタファイルを用いる場合

META.DATA というメタファイルに図形を格納する。メタファイルのデータセット名を省略した場合にはプロンプトが出力され, 入力を促す。

READY

GKS85 'LIB.SAMPLE.FORT77(GKS85A)' WS(MOA4L(META.DATA))

6) WISSを用いる場合

WISSにセグメントを作成し, セグメント操作を行った結果をF6683A型カラー端末に表示させる。プログラムに用いている, WISSをオープンさせるためのサブルーチンGOPWKの2番目と3番目の引数は共に10であるため, 以下のように指定する。

READY

GKS85 'LIB.SAMPLE.FORT77(GKS85D)' WS('F6683AC,10/10:WISS')

また, GKS85カタログドプロシジャが, CLP, 複数のワークステーションの同時動作機能のサポートに伴い, 6月11日(月)から変更になります。以下に指定形式を示します。

GKS85カタログドプロシジャ (バッチ処理)

(指定形式)

カタプロ名	パラメタ
GKS85	[, STEP = {C   CL   <u>CGO</u>   CG   CLG   GO}] [, SYSOUT = {O   <u>A</u>   K   S   U}] [, OPT = {1   <u>2</u>   3}] [, PRVLIB = '私用ライブラリデータセット名'] [, WS = ' [数値1 / 数値2 :] ワークステーション種別 [ , ..... ] ' ] [, PROG = プログラム名] [, LOADDS = 'データセット名']

(パラメタの説明)

STEP = {C | CL | CGO | CG | CLG | GO}

: 処理過程を選択する。省略時はCGO。

C : 翻訳のみ行う。

CL : 翻訳, リンケージエディタによる結合編集を行い,  
ロードモジュールを作成する。  
CGO : 翻訳, 結合編集, 実行を1プロシジャステップで  
行う。  
CG : 翻訳, ロータによる結合編集および実行を行う。  
CLG : 翻訳, リンケージエディタによる結合編集, 実行  
を行う。  
GO : ロードモジュールを実行する。

SYSOUT = {O | A | K | S | U}

: 出力クラスを指定する。省略値はA。

OPT = {0 | 1 | 2 | 3}

: FORTRANの最適化のレベルを指定する。省略値は2。

PRVLIB = 'データセット名'

: 組み込みたい私用ライブラリのデータセット名を指定する。

WS = ' [数値1 / 数値2 : ] ワークステーション種別 [ , . . . . . ] '

: 数値1はサブルーチンGOPWKの2番目の引数の値を指定する。  
数値2は同サブルーチンの3番目の引数の値を指定する。  
ワークステーション種別には以下のものがある。

・日本語ラインプリンタ

NLP

・カットシートラインプリンタ

CLPA4L . . . A4サイズ ランドスケープ  
CLPA4P . . . A4サイズ ポートレート  
CLPB4L . . . B4サイズ ランドスケープ  
CLPB4P . . . B4サイズ ポートレート

・オフィスプリンタ

OPRA4L . . . A4サイズ ランドスケープ  
OPRA4P . . . A4サイズ ポートレート  
OPRB4L . . . B4サイズ ランドスケープ  
OPRB4P . . . B4サイズ ポートレート  
OPRB5L . . . B5サイズ ランドスケープ  
OPRB5P . . . B5サイズ ポートレート

・メタファイル (入力)

MI

・メタファイル (出力)

MOA4L . . . A4サイズ ランドスケープ  
MOA4P . . . A4サイズ ポートレート  
MOB4L . . . B4サイズ ランドスケープ  
MOB4P . . . B4サイズ ポートレート  
MOB5L . . . B5サイズ ランドスケープ  
MOB5P . . . B5サイズ ポートレート

・セグメント記憶域

## WISS

PROG = プログラム名

: 実行するロードモジュールのメンバ名を指定する。このパラメータは、STEP = GOを指定した時のみ有効となる。省略値はMAIN。

LOADDS = '区分データセット名'

: 実行するロードモジュールが格納されている区分データセット名を指定する。このパラメータは、STEP = GOを指定した時のみ有効となる。

(注意)

・ プロシジャステップについて

- ① STEP = C : FORT
- ② " CL : FORT , LKED
- ③ " CGO : FORTCGO
- ④ " CG : FORT , LOADGO
- ⑤ " CLG : FORT , LKED , GO
- ⑥ " GO : GKSGO

・ 関連するDDD名について

- FORT. SYSIN : ソースプログラム用 (①, ②, ④, ⑤)
- FORTCGO. SYSIN : " (③)
- LKED. SYSLMOD : ロードモジュール用 (②)
- GO. SYSIN : 実行データ用 (⑤)
- LOADGO. SYSIN : " (④)
- FORTCGO. SYSGO : " (③)
- GKSGO. SYSGO : " (⑥)

・ WSパラメータは、

```
CONID = 12
WTYPE = 32
CALL GOPWK (WKID, CONID, WTYPE)
```

である場合、CONID = 数値1, WTYPE = 数値2であるから、

```
WS = '12/34:ワークステーション種別'
```

と指定するが、CONID = 1 かつ WTYPE = 1 であれば、

```
WS = 'ワークステーション種別'
```

のように、数値1 / 数値2 : を省略できる。

また、CONID = 1, WTYPE = 1, ワークステーション種別がNLPで、他のワークステーションを同時に使用しないのであればWSパラメータは省略できる。またCONID = 1であり、ワークステーション種別がOPR系またはメタファイル系でなければ、ジョブ制御文中で割当を行う必要はない。

例えば、CONID = 1234, WTYPE = 5678 であるとする、図形データはGKSC1234 という論理機番から出力(あるいは入力)される。WTYPEはGKS85が使用するワークステーション型ファイルに記述される数値である。

- ・ 同じワークステーション種別を同時に指定してはならない。
- ・ ワークステーションの同時出力を行なう場合、ソースプログラムが例えば  
 GOPWK (WKID1, CONID1, WTYPE1)  
 GOPWK (WKID2, CONID2, WTYPE2)  
 とすると、  
 WKID1 = WKID2 であってはならない。  
 CONID1 = CONID2 であってはならない。  
 WTYPE1 = WTYPE2 であってはならない。
- ・ C L P への出力で両面印刷を行う場合には、プロシジャステップが C L G で、図形データが論理機番 GKSC0001 から出力され、とじしろを UPPER に変更する場合  
 //GO.GKSC0001 DD SY=U, PRTFORM=(SIDE=BOTH, BIND=UPPER)  
 とする。印刷モードの省略値は F R O N T (片面印刷)，とじしろの省略値は L E F T である。

### 1) N L P への出力

応用プログラムを実行し、N L P に図形を出力する。このプログラムはサブルーチン G O P W K の 2 番目、3 番目の引数が、共に 1 であるから W S パラメタは以下のように指定してよい。

```
// EXEC GKS85, STEP=CLG, WS='NLP'
//PORT.SYSIN DD DSN=LIB.SAMPLE.FORT77(GKS85A), DISP=SHR
```

### 2) O P R への出力

応用プログラムを実行し、O P R に図形を出力する。ソースプログラムで用いているサブルーチン G O P W K の 2 番目の引数が 1、3 番目の引数が 2345 であるから以下のように W S パラメタを指定する。

```
// EXEC GKS85, STEP=CLG, WS='1/2345:OPRA4L'
//PORT.SYSIN DD DSN=LIB.SAMPLE.FORT77(GKS85B), DISP=SHR
//GO.GKSC0001 DD DSN=A79999A.OPR.DATA, DISP=(NEW, CATLG),
// SPACE=(TRK, (10, 10), RLSE), UNIT=PUB
```

上記ジョブを実行した後、O P R 機番 XXXX へ出力するために、T S S で次のコマンドを実行する。

```
READY
DSPRINT OPR.DATA XXXX DOC
```

### 3) 複数の図形装置への出力

このプログラムにはサブルーチン G O P W K の 2 番目、3 番目の引数が共に 1 のもの、2 のもの、3 のものの 3 つがある。このため、W S パラメタは以下のように指定する。ここでは、N L P、C L P (A 4 サイズランドスケープ)、O P R (A 4 サイズランドスケープ) に出力させる。

```
// EXEC GKS85, STEP=CLG, WS='NLP, 2/2:CLPA4L, 3/3:OPRA4L'
//PORT.SYSIN DD DSN=LIB.SAMPLE.FORT77(GKS85C), DISP=SHR
//GO.GKSC0002 DD SYSOUT=U
//GO.GKSC0003 DD DSN=A79999A.OPR.DATA, DISP=(NEW, CATLG),
```

```
// SPACE=(TRK, (10, 10), RLSE), UNIT=PUB
```

上記ジョブを実行した後、OPR機番 XXXX へ出力するために、TSSで次のコマンドを実行する。

```
READY  
DSPRINT OPR.DATA XXXX DOC
```

#### 4) メタファイルを用いる場合

応用プログラムを実行し、データセット名 META.DATA というメタファイルに図形を格納する。

```
// EXEC GKS85,STEP=CLG,WS='MOA4L'  
//FORT.SYSIN DD DSN=LIB.SAMPLE.FORT77(GKS85A),DISP=SHR  
//GO.GKSC0001 DD DSN=A79999A.META.DATA,DISP=(NEW,CATLG),  
// SPACE=(TRK, (10, 10), RLSE), UNIT=PUB
```

#### 5) WISSを用いる場合

WISSにセグメントを作成し、セグメント操作を行った結果をNLPに出力させる。プログラムに用いている、WISSをオープンさせるためのサブルーチンGOPWKの2番目と3番目の引数は共に10であるため、以下のように指定する。

```
// EXEC GKS85,STEP=CLG,WS='NLP,10/10:WISS'  
//FORT.SYSIN DD DSN=LIB.SAMPLE.FORT77(GKS85D),DISP=SHR
```

#### 参考文献

- [1] 計算機マニュアル, 富士通 GKS85 文法書 (FORTRAN編) (99SP-4040-2), 富士通(株).
- [2] 計算機マニュアル, 富士通 GKS85 使用手引書 V10 (99SP-4080-1), 富士通(株).

(ライブラリ室 内線2508)

### 3. GKS85のKST (ストローク) フォント機能の追加について

GKS85に標記機能を追加しています。KSTを使用する場合はGKS85のサブルーチンGSTXFPの最初の引数に-100を指定します。

```
:  
CALL GSTXFP (-100,2)  
:  
CALL GTX (CHX,CHY,CHAR)  
:
```

なお、テクトロ端末にGKS85の図形を表示する場合には必ずKSTを使用して下さい。

参考文献

- [1] 計算機マニュアル, 富士通 GKS 85 文法書 (FORTRAN 編) (99SP-4040-2), 富士通(株).
- [2] 計算機マニュアル, 富士通 GKS 85 使用手引書 V10 (99SP-4080-1), 富士通(株).

(ライブラリ室 内線 2508)

#### 4. A4版高速NLPへの図形出力について

5月21日(月)から,以下のソフトウェアについては,A4版高速NLPでの図形出力が可能になりました.A4版高速NLPの出力クラスは'H'です.

1.GRAPHMAN 2.CGMS 3.ANALYST 4.PSP 5.PKS 6.HCBS

使用例

1.GRAPHMAN

(TSS) ①メニューにより出力する方法

READY

GRAPHMAN

GRAPHMAN START

\* PICTURE TOUROKU SUBROUTINE LIBRARY=APP1.GRAPH40.PICLIB \*

=== FOLLOWING DEVICES ARE SUPPORTED NOW. ===

- 1 NON GRAPHIC DISPLAY ( CHARACTER DISPLAY )
- 2 F9431, F9432, F9433, F9434
- 3 T4006
- 4 T4010, T4012, T4013
- 5 T4014, T4015, T4016
- 6 NLP
- 7 XY-PLOTTER
- 8 F9430 & SCOPY
- 9 A4 SIZE NLP
- 10 F6242
- 11 F6653, F6658, F6683 (BGD, WDS, VDS)
- 12 A4 SIZE OPR
- 13 B4 SIZE OPR
- 14 UTS (T40XX)

PLEASE SELECT DEVICE NUMBER ==> 9 ..... A4版高速NLPに出力

②GPARHMANのバッチコピーユティリティを使用して出力する方法

READY

GOUT NLP.DATA SY(H)

..... GOUTコマンドによりA4版高速NLPに出力する.

```
(A'ッフ) //A79999AX JOB CLASS=A,MSGCLASS=H
          // EXEC GRAPHMAN,SY=H
          //SYSIN DD *
          9 ..... バッチ処理では最初に出力する装置を番号
          PDB 'LIB.SAMPLE.GRAPHMAN' ..... で指定しなければならない。9はA4版高
          USE CONT2N ..... 速NLPである。この下にGRAPH
          DISPLAY BIRD ..... MANのコマンドを記述する。
          ENDG
          //
```

## 2. CGMS

```
READY
CGMS
> %ALLOC F(GDFILE) SY(H) ..... A4版高速NLPに出力することを指定。
> OPEN-DEVICE 7 ..... この後にCGMSのコマンドを記述する。
```

## 3. ANALYST

```
READY
%ANALYST MACRO(''LIB.SAMPLE.ANAMACRO'') BANK(''LIB.SAMPLE.ANABANK'') SY(H) ..... 出力クラス”H”を指定して、ANALYSTを起動する。
ANALYST_ GRAPH TERM(F6242) ..... GRAPHコマンドを入力する。
ANALYST_ NLP SCALE W(S1 A4) LI(64) COL(80) ..... NLPコマンドを入力する。LINE
Oペラントに1シート当りの行数を定義
する。(64以外はエラーになる。)CO
LUMNオペラントに欄数指定する。CO
LUMNオペラントの省略値は109である
が、A4版の場合、最大値は86である。
ANALYST_ SAMPLE ..... ANALYSTのグラフィックスを使用したマクロを起動して、各種グラフを出力す
る。このとき画面にグラフは表示されない。
ANALYST_ END ..... ANALYSTを終了する。
```

※A4版NLPには、SCALEモード、NOSCALEモードのどちらでも、グラフを出力することができる。但し、NOSCALEモードの場合、SIZEオペラントで指定したウィンドウの大きさはB4版NLPと同じなので、1/9サイズ、1/4サイズを指定した場合、NLPシート(A4)に入らない場合がある。また、SCALEモードを使用する場合、ウィンドウの原点位置は(0,0)である。

#### 4. P S P

(TSS) READY

ALLOC F(FT16F001) DA(PSP.DATA) NE CA T SP(10 10)

RUN 'LIB.SAMPLE.FORT77(PSP)'

NPLOT PSP.DATA OUT(H)

..... A 4 版高速 N L P に出力

(ハッパ) //A79999AZ JOB CLASS=A,MSGCLASS=H

// EXEC FORT77,STEP=CLG

//FORT.SYSIN DD DSN=LIB.SAMPLE.FORT77(PSP),DISP=SHR

//GO.FT16F001 DD DSN=&&PSP,UNIT=WORK,DISP=(NEW,PASS),

// SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)

// EXEC NPLOT,SYSOUT=H

//XYSYS DD DSN=&&PSP,DISP=(OLD,DELETE)

//SYSIN DD \*

\* XY P=68,M=7,NOLMT,POS=(4,4),H,D=R .....P=68 は必ず指定する.

\* END

//

#### 5. P K S

(TSS) READY

PKS 'LIB.SAMPLE.FORT77(PKS)' GOUT(NPLOT) .....デ-タセット G P L O T に図形デ-タを出力

NPLOT G P L O T OUT(H)

..... A 4 版高速 N L P に出力

(ハッパ) //A79999AZ JOB CLASS=A,MSGCLASS=H

// EXEC PKS,STEP=CLG,PKSOPT='PKS(F6202,KSTRK=KANJI,NOBUF)'

//FORT.SYSIN DD DSN=LIB.SAMPLE.FORT77(PKS),DISP=SHR

//GO.FT18F001 DD DSN=&&PKS,UNIT=WORK,DISP=(NEW,PASS),

// SPACE=(TRK,(10,10),RLSE)

// EXEC NPLOT,SYSOUT=H

//XYSYS DD DSN=&&PKS,DISP=(OLD,DELETE)

//SYSIN DD \*

\* XY P=68,M=7

.....P=68 は必ず指定する.

\* END

//

#### 6. H C B S

(TSS) READY

ALLOC F(FT18F001) DA(HCBS.DATA) NE CA T SP(10,10)

RUN 'LIB.SAMPLE.FORT77(HCBS)' LIB('QS.CALCOMP')

NPLOT H C B S . D A O U T ( H ) L I B ( H C B S )

..... A 4 版高速 N L P に出力

(ハッパ) //A79999AZ JOB CLASS=A,MSGCLASS=H

// EXEC FORT77,STEP=CLG,PRVLIB='QS.CALCOMP'

```

//FORT. SYSIN DD DSN=LIB. SAMPLE. FORT77 (HCBS), DISP=SHR
//GO. FT18FOO1 DD DSN=&&HCBS, UNIT=WORK, DISP=(NEW, PASS),
//      SPACE=(TRK, (10, 10), RLSE)
// EXEC NPLLOT, LIB=HCBS, SYSOUT=H
//CCFILE DD DSN=&&HCBS, DISP=(OLD, DELETE)
//SYSIN DD *
* XY D=0, H, M=30, P=68          .....P=68 は必ず指定する.
* END
//

```

(ライブラリ室 内線 2508)

## 5. k コマンドの公開について (UTS)

k コマンドは ksh のような行編集と履歴機能を持ったプログラムであり、会話的な UNIX のコマンドの入力支援を行います。会話的な処理をするコマンドに対して非常に便利なツールになります。vi モードと emacs モードの 2 つのモードを選択することができます。コマンドの実行形式は次のとおりです。

### k コマンド [コマンドに対する引数]

例えば、math は、" k math " で起動します。環境変数 VISUAL を emacs にセットして [setenv VISUAL emacs], k コマンドを起動すれば、emacs モードになります。vi をセットすれば、vi モードになります (デフォルト)。現在センターで確認している k コマンドを用いて有効なコマンドは以下のとおりです。ただし、S の起動には k コマンドが組み込まれています (センターニュース No. 417 参照)。

• S		• bc
• math	..... Mathematica	• calc
• kcl	..... Kyoto Common Lisp	• dc
• st	..... Little Smalltalk	• ed
• pcl	..... Portable Common Loops	• mail

### • emacs モードでの主なサブコマンド

^p	前行に戻る
^n	次行に行く
^f	カーソルを 1 文字進める
^b	カーソルを 1 文字後退する
^d	1 文字消去

・ viモードでの主なサブコマンド

先ず、ESCキーを押してサブコマンドモードにする。

- k 前行に戻る
- j 次行に行く
- l カーソルを1文字進める
- h カーソルを1文字後退する
- x 1文字消去
- i 挿入モードにする

kコマンドの詳しい使い方は"lman k"で参照してください。

(ライブラリ室 内線2508)

6. p2c (種々のpascalからcへのトランスレータ)の公開について(UTS)

標記コマンドを6月4日(月)から公開します。このコマンドは種々のPascal (Turbo, VAX, Berkeley Pascal, Modula-2など)のソースプログラムをCのソースプログラムに変換するものです。詳細については"lman p2c"をご覧ください。なお、既に公開しているptcは別コマンドです。

使用例

p2c test.p ..... test.cに変換される

(ライブラリ室 内線2508)

7. 遺伝子・蛋白質データベースGENAS講習会の延期について

6月19日(火)に予定していました遺伝子・蛋白質データベースGENAS講習会を都合により延期します。変更後の期日は9月中旬の予定です。開催時期になりましたら、申し込み要領とともにセンターニュース等でお知らせします。

(データベース室 内線2510)

